

本ができました！



『戦時下学問の統制と動員—日本諸学振興委員会の研究—』

駒込 武・川村 肇・奈須恵子編

東京大学出版会、689頁+85頁

12,600円

2011年3月25日

以前、『学院史編纂室便り』No. 28 (2008年12月16日)に「関西学院 学院史編纂室所蔵『文部省関係文書』について」という一文を寄稿させていただいた。その学院史編纂室所蔵の「文部省関係文書」を大いに活用させていただいた共同研究がまとまり、2011年3月、『戦時下学問の統制と動員—日本諸学振興委員会の研究—』として、東京大学出版会より上梓することができた。寺崎昌男、駒込武、川村肇、高橋陽一、岩田康之、木村元、山本敏子、友野清文、奈須の総勢9名による共同研究であり、駒込、川村、奈須が編者となった。戦時下に思想・学問統制、さらには学会・学界再編と学術研究者の戦争への動員がどのようになされたのかを、1936年に設置された日本諸学振興委員会の活動の事実解明に焦点をあてて研究したものであり、「第Ⅰ部 教学刷新体制の構築」「第Ⅱ部 教学刷新体制下の教育学」「第Ⅲ部 教学刷新体制下の諸学問」の3部構成となっている。日本教育史研究者による共同研究であるが、教育学のみならず、哲学、国語国文学、歴史学、経済学、芸術学、法学、自然科学、地理学など、日本諸学振興委員会の開催した各学会に即した分析も行っている。機会があれば、お手にとっていただき、関心をもたれたところだけでもお読みいただければ幸甚である。

もともと20数年前、大学院での日本教育史の演習において「近代日本教育学説史研究」をテーマに学び、調べ始めたことがこの共同研究の出発点となっている。1992年には中間報告も簡易製本で出しており、日本諸学振興委員会という組織についてかなりの程度までは解明することができていたと思うが、この4、5年間で、大学と文部省との往復文書などによって基礎的な事実をおさえ、掘り起こしていく作業を改めて進めていった。その作業を行うにあたって、関西学院の「文部省関係文書」は極めて重要な資料群となった。文部省思想局や教学局と関西学院大学との往復文書からは、日本諸学振興委員会の学会開催についての情報ばかりでなく、文部省による思想統制や学問の動員の過程を看取することができた。さらに、この本の第Ⅰ部では、天皇機関説事件の際に、関西学院大学の**中島重**【写真は1937年頃】が受けた様々な圧力について紹介している。この中島の事例をとりあげることができたのは、「文部省関係文書」の中に綴られた中島の憲法学説調査についての文書を目にしただけでなく、編纂室の池田裕子さんから、天皇機関説事件の際の憲法学説調査について調べている神奈川大学の常石敬一さんたちの存在を教えていただいたことも大きい。



共同研究メンバーの間では、関西学院の「文部省関係文書」と出会わなければ、今回の本の内容にはできていなかったであろうと話している。編纂室に勤務されて「文部省関係文書」の整理を担当された伊藤笙子さん、そして、編纂室に伺うたびに研究の重要なヒントをくださる池田裕子さんなど、編纂室の方たち、関係者の方たちに改めて深く感謝の意を表したい。(立教大学文学部教授 奈須恵子)

学院史編纂室便り No. 33 (2011年6月10日)

関西学院学院史編纂室

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155

TEL : 0798-54-6022 FAX : 0798-54-6462

<http://www.kwansei.ac.jp/gakuinshi/ARCHIVES.htm>

新任教職員で、図録『関西学院の100年』、『関西学院百年史』(全4巻+索引)をご希望の方はお申し出ください。